

札幌市議会総務委員会（10月22日開催）における主なご意見

- 日本の他都市と差別化を図るため、北方圏に対するゲートウェイの位置付けは見逃すことができない。むしろこれからの時代だからこそ生きてくるのではないかと思う。
- 世界とのつながりを意識し、札幌が躍動感にあふれ、世界が憧れるまちを実現するという考え方を都市像の中に盛り込むとともに、今の市民にとっての費用対効果だけでなく、未来の市民のことを見据えたまちづくりの視点が重要である。
- 国際的な貢献といった角度で都市間の連携や交流ができないか。北海道の地の利を生かし、例えば、北大や札幌大の高い医療技術を通して国際的な医療貢献ができるのではないか。
- 第4章で市民の役割を多く掲げられると、行政の役割を後退させる意図があると思ってしまう。第5章の「限りある資源の有効活用と共創」「世代間の公平」の表現から、高齢者などへの負担の増大を招くのではないかと懸念している。
- 施策展開の中で、子どもたちの未来を考えながらやっていくことは、未来の投資という意味合いもある。一つひとつの施策が次の世代にとってどうなのかを常に考えながらやっていくことが大事である。
- 脱原発依存社会の先にある持続可能なまちづくりを進め、子どもたちに引き継ぐ考えは、多くの市民も納得するものだと思う。私たちが誇る北海道の自然や札幌の生活を豊かに支えているみどりといった環境をしっかりと引き継いでいくことが求められている。
- これからの経済やまちづくりを担う若者が活躍できる都市を目指すことは大変重要であり、都市像の中にもこうした理念が盛り込まれることを期待したい。
- 北海道の強みを生かした付加価値の向上は非常に重要な視点である。経済の分野で道内連携を意識し、北海道との連携を深め、実効性を高めていくことが重要である。
- ビジョンを推進するに当たって、行政の組織機構のあり方も大きな転換点を迎えている。また、札幌市職員の「専門職」を生かすことも必要である。